

プレスリリース

2018年12月13日
国境なき医師団 (MSF)

イエメン：終わりの見えない紛争で医療が壊滅状態に【情報まとめ】

2015年3月以降、泥沼の紛争が続くイエメン。国境なき医師団 (MSF) は現地の医療不足を補うべく、対応を続けている。MSF がこれまでに治療した負傷者の数は9万人を超えた。戦闘が激化するホデイダとタイズを中心に MSF は医療施設を運営し、外科手術や感染症の治療にあたっている。これまでの症例数や MSF の対応をまとめた。

各地の状況

長引く紛争によってイエメン全域の医療体制が壊滅状態だが、北部は特に深刻な状況だ。2016年8月から医療従事者の給与は支払われておらず、人材不足を招いている。稼動している病院も残り少ない。さらに、サヌア空港の封鎖によって国外で治療することもできなくなっている。

ホデイダ

2018年9月、スイス・ジュネーブでの和平協議が失敗に終わり、9月18日にはサウジアラビアとアラブ首長国連邦 (UAE) が支援する暫定政権軍が反政府勢力「アンサール・アッラー (通称フーシ派)」に対する攻勢を再開。反政府勢力が支配するホダイダ市が戦線となり、首都サヌアに通じる主要道路の一部が封鎖され、包囲戦の懸念が高まった。

8～9月には通貨のイエメン・リアルが大幅に下落し、物価の高騰と燃料不足に陥った。ホデイダ市民60万人の半数以上が首都サヌアやイッブ、ハッジヤに脱出したとみられるが、景気悪化を受け、10月に帰還する人も見られた。

10月上旬、MSF は市北東部のアル・サラカナ病院で活動を開始。戦闘拡大に備え、救急処置室と手術室を修復した。11月、暫定政権軍は陸上部隊を派遣し、攻勢を激化。アル・サラカナ病院の間近まで戦線が迫った。ホデイダ市に残された病院は、このほか2施設のみ。中核病院であるアル・タウラ病院も運営を続けているが、迫りくる戦線はやはり脅威だ。

モカ、アデン、アブス、ハッジヤ

11月、MSF はホデイダの戦闘による負傷者750人以上をホデイダ市内のほか、モカ、アデン、アブス、ハッジヤの施設で治療。負傷の原因は、おもに銃撃や爆弾によるものだった。

ホデイダの南 180km に位置するモカでは 8 月から活動。ホデイダ、タイズからの救急患者に対応するため、野外科病院を設置。これまでに約 2000 件の救急診療、1000 件以上の手術を行った。8～12 月に受け入れた急患の 18% が 15 歳未満だった。地域で唯一、緊急手術ができる野外病院では、合併症を起こした妊婦の緊急手術にも対応している。

アッダリ

10 月、アッダリ県で MSF スタッフと宿舎を狙った事件が 1 週間以内に 2 件相次いで発生。11 月 7 日、MSF は同県での活動終了を発表した。この地域で、MSF は繰り返し暴力行為や脅迫に遭っており、過去にも複数回、活動停止を余儀なくされている。

アッダリ県で MSF は 2012 年から活動。県都アッダリ市、カタバ地区、アル・アザリク地区、ダムト地区で無償の医療を展開し、合計 40 万人以上を治療していた。

2018 年 11 月の戦闘による地域別負傷者数

	アデン	モカ	ホデイダ	ハッジャ	アブス	合計
負傷者数	105	259	116	140	131	751
うち女性	3	16	31		-	
うち子ども	4	33	22	-	-	
負傷の原因						
銃撃	58	118	42	62	55	335
爆発	39	86	55	78	76	334
爆発物破片	1	50	14			65
不明	7	1	5			13
地雷		4				4

栄養失調・感染症対策

栄養失調

MSF はハッジャ、サアダ、アムラン、イブ、タイズの 5 県で栄養失調プロジェクトを展開。2018 年 1 月からの 10 ヶ月間で合計 4855 人の栄養失調患者を治療した。MSF が活動地で収集したデータからは、「飢きん地区」（全急性栄養失調の有病率が子どもだけでなく、青少年や成人の間でも非常に高く、死亡率も高い）の存在は読み取れない。ただ、MSF をはじめとする NGO も国連機関も、全人口の栄養状態は俯瞰できていない。情勢不安や移動制限の影響で、大規模な調査ができずにいることが理由だ。

コレラ

MSF はアムラン県ハメル、イップ県イップ、ハジヤ県アブスでコレラ治療ユニット、イップ県ジ・アッスファル、タイズ県フーバン、アッダリ県ダムト、そしてアブスでコレラ治療センター（CTC）を運営し、2018年1月からの10ヵ月間で患者6680人を治療した。

コレラ感染はいったん抑え込まれたが、依然として警戒が必要。患者数のピークは7月で、8月には減少に転じ、前年同期を下回った。

MSFの診療実績（2015年3月～2018年10月）

戦闘などの暴力による負傷者：	9万1574人
救急患者：	97万3095人
外科手術：	7万6436件
小児患者（暴力被害者を除く）：	3万4189人
分娩介助：	6万4032件
国内避難民の一般診療：	23万2576件
コレラ疑い症例：	11万4646件
マラリア：	1万4130件
栄養失調：	1万4370件
活動するMSFスタッフ数：	2200人以上
2018年予算：	6450万ユーロ
配布した医療物資・設備：	合計4760トン

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

TEL：03-5286-6141 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press